

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	千葉県夷隅郡夷隅町立中川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	
児童数	16	12	16	18	19	14	4	99	14

II 研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上をめざす児童の育成
—— 算数科の指導を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

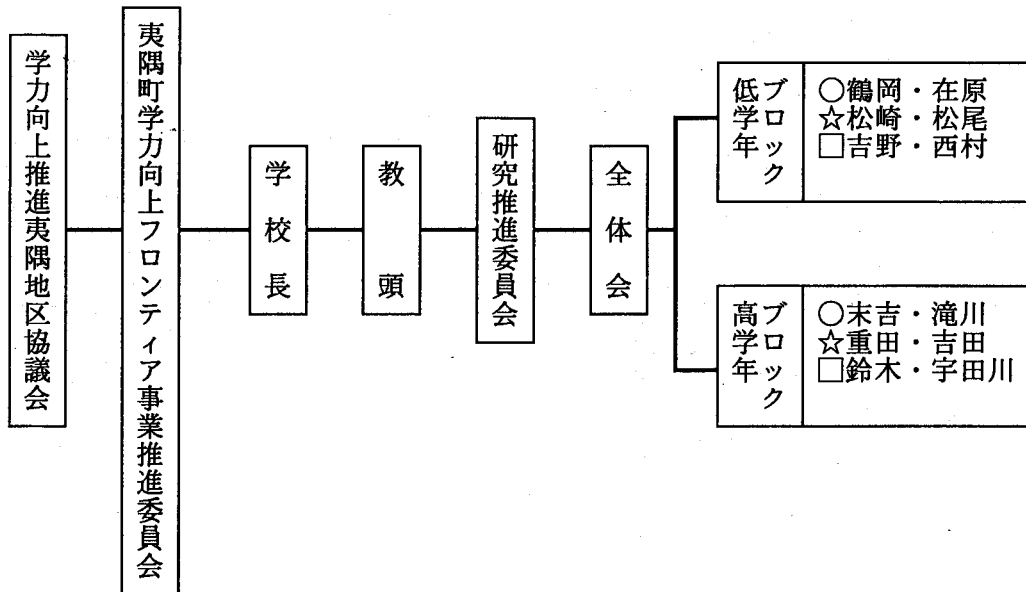
実施学年	全学年
実施教科	算数科
選択理由	児童のよさやつまづきの発見がしやすく、児童の実態を生かしたきめ細かな指導が必要と考えられること。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ	児童一人一人が学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につけるための指導方法を明らかにする。
	○仮説	児童の実態を生かし、一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を工夫すれば確かな学力が身に付くであろう。
	○研究の内容・方法	
	(1) 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた教材の工夫と開発 ・基礎・基本の定着を図るための時間の確保(フロンティアタイム)
	(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った少人数指導のあり方 ・T・T会議の活用
	(3) 児童の学力の評価を生かした指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高める評価の方法の工夫 ・評価を指導に生かすための工夫
	(4) 町内小・中学校と地域との連携	

平成16年度	○テーマ	児童一人一人が学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につけるための指導方法を明らかにする。
	○仮説	評価のあり方を生かした、効果的な学習形態を工夫すれば個に応じた確かな学力が身につくであろう。
	○研究の内容・方法	
	(1) 児童の学力の評価を生かした指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を指導に生かすための工夫 ・評価規準の見直し ・個人カルテの作成と活用
	(2) 個に応じた指導のための教材開発	<ul style="list-style-type: none"> ・各コース独自の学習内容の開発
	(3) 保護者・地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの開設

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 自分に合った学習方法や学習進歩のため、一斉授業より意欲的に取り組むようになり、学習内容も理解できてきている。
- 一斉学習では、自信の持てない児童が、コース別の学習により、話し合いの場面で進んで発表したり、友達に教えたりする姿がみられるようになってきている。逆に一斉学習では、余裕のある児童は、進んで課題解決に取り組んだり、自作問題を作ったりできた。さらに比較・検討の場でも意欲的にとりくむ姿が多く見られるようになった。
- 少しずつ自分に合っているコースを選べるようになってきている。

2. 今後の課題

- 発展的な学習では、単元によって目標、内容、方法、考え方などそれぞれの難易度をかせ、コース独自の学習内容の研究を深める。(負担加重にならないように配慮する)
- 学習状況を適切に評価し、その評価の結果によって後の指導を改善する。
- 保護者・地域への発信

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取り組み

1. 地域・保護者への意識調査 (7月・2月)

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 年間10回以上の町内4校の公開授業では、共通理解の場となるだけでなく、研究開発や情報交換の場となった。(町としての取り組み)

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無